

まほろば元気通信

co-op shizenha nara official newsletter vol.1224-1 2024.2.12

注文専用ダイヤル
フリーダイヤル **0120-408-154**
携帯電話(無料通話プランなし) 0570-050-154
携帯電話(無料通話プランあり)・IPフォン 088-666-3321
受付時間▶月10:00~21:00 火~金8:00~21:00 土8:00~10:10

組合員サービスセンター
フリーダイヤル **0120-408-300**
携帯電話(無料通話プランなし) 0570-063-008
携帯電話(無料通話プランあり)・IPフォン 088-603-0080
受付時間▶月~金 8:30~20:00

産地見学に行ってきました!

徳島県

報告 11

幸崎けやき堂①

2023年8月17~18日、理事研修として板野セットセンター、鳴門市賀川豊彦記念館、鳴門市ドイツ館、太子屋(豆腐)、マストミ(まぐろ)、幸崎けやき堂(餅)を訪問しました。全12回に分けて報告します。

約40年前、コープ自然派草創期の頃からおつきあいのある生産者である幸崎けやき堂。現在は創業者の孫にあたる幸崎史朗さんが三代目店主です。

餅は、屋号にもなっているけやきの白でついています。おじいさん(初代)自らけやきの木をくり抜いて作った臼を、鉄工所に注文して作ってもらった特注のフレームに組み込み、電動で餅がつけるようになっています。けやきは頑丈で、割れも毛羽立ちもなく、手入れしながら大事に使われ続けています。木臼は吸水作用があるので、お餅の食感が良くなるそうです。そして杵をふるうことこそ電動ですが、それ以外は全て手作業!人の手と目で見極めながらお餅を仕上げる作業も含めて職人さんたちの技の結晶だと感じました。

添加物を入れないため賞味期限の短い商品ですが、-30℃で急速冷凍することでおいしさを閉じ込め、食品ロスを減らすことも大切にしています。コープ自然派へも冷凍での出荷ですし、お店の横には冷凍自販機を設置し24時間いつでも購入できるようにしたそうです。



産地見学に行ってきました!

徳島県

報告 12

幸崎けやき堂②

幸崎けやき堂と言えばよもぎ餅。よもぎは春に家族総出で野山に行き、1年分手摘みします(量の想像がつかない...!)。茎をのぞいて、蒸して、ペーストにして、冷凍保存しておき1年間使います。小豆あんも自家製で、大きな釜で炊き、1日寝かせて使います。昔ながらの作り方、味を継いでいくことを大切にされています。

見学した日は、ご家族みなさんで迎えてくださり、4代目を継ぐかもしれない(?)息子さんにも教えてもらいながらよもぎ餅づくり体験をさせていただきました。子どもたちと一緒にコツをききながら包む作業は、学びだけでなく楽しさと、幸崎一家のあたたかさにつながる時間でした。こういう家族経営の小さなお店がコープ自然派の生産者に名を連ねてくださっていることがとても嬉しく思いました。

板野センターも、見学させていただいた生産者さんも、新しいシステムや商品・販売法を取り入れながらも、昔から変わらない・変えずにいる理念やこだわりの製法がありました。また訪問した全てが、1日に大量の商品を作り保管し出荷し、油や水や魚、肉を扱うにも関わらず、とにかく清潔で衛生的でした。-50度の冷凍庫の寒さ、何度も温度を変えながら揚げる暑さ、ずっと作業するには厳しい環境でもありながら、会社のどの場所もピカピカな様子にも思いを感じる事ができました。どの生産者さんたちの理念もお人柄も素晴らしく、皆さん「コープ自然派さんとは何十年のお付き合いです」と紹介してくださり、その長いお付き合いがこれから先もずっと続いてほしいと思いました。



事務局NEWS

今週ぜひチェックしてほしいお知らせをお届けします。



お問い合わせの前に

組合員サービスセンターへのお電話が集中しつなかりにくくなっております。お問い合わせをいただく前にホームページの「よくあるご質問」をご確認ください。



よくあるご質問はこちら

キッチンカー出店情報

毎週月曜日 11時頃-14時頃@みのりの里しらにわ

毎週金曜日 10時頃-12時頃@旬の里まみが丘

2月14日(水)11:00-16:00『水曜日のマルシェ』@手作り雑貨とカフェCROWN

2月18日(日)10:00-14:30『ワト輪』@天理観光農園わわ 3F

2月18日(日)10:30-16:00『さくらんぼ市』@北コミュニティセンターISTAはばたき



CO・OP共済ご加入の組合員さんからの「ありがとう」の声を紹介します

・予想外の子供の入院・手術などが起こった時は、子供の事が1番の心配ですが、正直なところ金銭面でもダメージを受けます。少しでも金銭面で助けて貰えるので助かります。(30代女性)
・請求手続きをしてからの対応が早いので助かっています。まさか自分が受けとる側になるとは思っていませんでしたが、共済に入っていて本当によかったと思いました。ありがとうございました。(50代女性)



私のおすすめ商品

『自然派Style国産有機醤油だしつゆ』

忙しいときにうすめておすましを作って卵を入れ、かきたま汁を作っています。しっかりとしだしの味が感じられ、子どもたちも喜んで飲み干してくれています。(拡大事務 松本友加里)

配送スタッフ紹介

こんにちは、配送担当の吉田です!先週、ミーティングで「香害」について再度学びました。柔軟剤の匂いなどの強い匂いで苦しんでおられる方がいることみんなで共有し、自然派らしい配送品質でお届けできるよう頑張ります!よろしくお願いします!(1667コース 吉田裕貴)



「令和6年能登半島地震 緊急支援募金」にご協力をお願いします。

2024年1月1日、石川県能登地方を震源として最大震度7の大地震が発生しました。コープ自然派では44号から48号の間、緊急支援募金活動に取り組みます。組合員の皆様ご協力よろしくお願いします。詳しくは商品ニュースをご覧ください。※支援募金はポイント対象外です。また、寄付金控除の対象外です。

010016

令和6年能登半島地震
緊急支援募金

1口 500円

報告

ベンガラ染めワークショップ

夏休みも最終に入った8月17日にベンガラ染めのワークショップを開催しました。大人8名、子供2名が参加して下さり大盛況に終わりました。「どんな風に仕上がるかわくわくした」「とても楽しかった。自分で作ると愛着が湧きます」「夏休みの子供達の宿題にぴったり」「子供と楽しく簡単に染め物ができた」「泥っばいと思ったけど、手に付いても嫌な感じがなくて、身近な物を染めれそう」と、ワークショップを楽しんだ参加者さんから喜びの感想をいただきました。また今回試食も込めて、おやつも提供しました。染めたハンカチを乾かす間にちょっとブレイクタイムで、ハワイアンバターもち、クランブルチーズケーキ等を提供させて頂いたのですが、とても好評で「このケーキ次回いつ載るんやろ?また食べたいわ」「食べた事のないおやつを食べれて嬉しかった」と、喜んで下さり思い思いに楽しんでいただけました。

■開催日:2023年8月17日
■場 所:コープ自然派奈良 活動室
■主 催:カラフル



◇自然派の野菜セット

<48号> 注文番号 318 1,080円(税込)

ぜーんぶ奈良県産! 奈良県農民連から鮮度バツグンで届きます。直近のお届けは、ターサイ、青ねぎ、水菜、大和まな、菌床しいたけ、じゃがいも(ニシユタカ)。



◇谷農園の野菜セット

<48号> 注文番号021135 1,080円(税込)

長年根強いファンをもつ、すべて無農薬の野菜セットです。様子をみて出せるものを...



◇直近のやさい産地情報◇

【ミニ白菜】...思っていたより早く収穫が終わってしまったため、全量中止
【ミニパプリカ】...少しずつ収穫できる状態のものが増えてきたのですが、一部中止
【有機ミニトマト】...産地からはめいいっぱい出荷してもらっていますが、一部中止
【小松菜】...産地からはめいいっぱい出荷してもらっていますが、予想を超える受注数につき一部中止
【有機ミニチンゲンサイ】【有機レタス】...生育遅れが発生している産地があるため、一部中止



報告

プチぐるぐるマーケットをやってみよう！

■開催日:2023年7月27日
■場 所:コープ自然派奈良 会議室
■主 催:理事会(うきうき活動室PJ)



物々交換「ぐるり」発起人の久本和明さんをお迎えしてお話をお伺いし、プチぐるぐるマーケットをしました。久本さんのお話は「ぐるりは、生協と似ている」というお言葉から始まりました。アパレル会社の経営をされている久本さん。会社は、軌道に乗り経営は順調でしたが、何か違う…と思い始めたそうです。日本は、こんなに物が溢れているのに何だか人々が幸せそうではない？東南アジアを旅した際に感じたことは、家族の概念が大きい！親戚も含め100人～200人が家族!!大人数なので家族の中で教育、食料、家、保険…ぜんぶ賄えてしまう。家族みんなで協働、勿論支払いは発生しない。昔は日本でも村全体で家族のようなコミュニティが成り立っていましたが、現在の日本社会は、隣家の音も聞こえない、関わりがとても薄い。家族の概念がとっても小さく、家族外の方とのやり取りは、お金を介することが基本。

物は、家族の中で不要になったらゴミになってしまうので、ゴミも溢れている。現在の人の生産/消費活動は、既に地球のキャパを超えている。日本の木材消費量は世界2位。紙製品だけで300万t/年の消費量で、輸入の多くを頼るマレーシアの熱帯雨林の約80%が既に消滅。森林が破壊されると生物の多様性が失われ、昆虫が減少し、受粉がされなくなり食料不足に繋がります。生態系の一番上にいる人間は、何のために生まれたのかな？地球を汚染/破壊するためではなく、生態系の循環がより良く働くように生まれてきたはず。と久本さんは話されました。フィジーでは所有の概念が薄く、おれの物はみんなの物、お前の物もみんなの物、みんながやさしいジャイアンな「ケレケレ」という文化があり、お金がなくても幸せと多くの方が話されるそうです。お金が無くても幸せと感じられる社会=お金を介さなくてもいい社会=みんなが家族(コモン)な社会=不等価交換な社会。久本さんは、そんな社会になったらいいなと、その入り口としてぐるりを始められたそうです。ぐるりのルールは、①信頼②対話③適当④楽しく⑤不等価交換。問題は出てきた時に対話で解決していく。ゆるゆるとなるべくルールを作らず、誰もが入りやすい状態にする。ワクワクな未来が始まりそうな予感です♪

【報告者:杉山】

報告

民主主義Week!? 6月までノルウェーの高校に留学していた赤澤さんにそれ、教えてもらおう！

■開催日:2023年8月8日
■場 所:オンライン
■主 催:CIVIC

教育が根底から違いました 政治に関心が薄く政治の話を友人と話せる雰囲気でもない。政治を語るのはタブーとすらされている日本の女子高生が交換留学生としてノルウェーに渡り労働党のユース政党AUFに所属 様々な政治活動を経て帰国後、日本若者協議会で国内政治について精力的にご活動するまでの経緯や想いを、赤澤優羽さん御本人からお伺いする勉強会を8/8チームcivicで行いました。

そもそもノルウェーの高校ってどんなところ？ ノルウェーの10代の人たちはどんな？政治活動“をしているの？

・民主主義指数1位 ・報道の自由度ランキング1位
・ジェンダーギャップ指数3位

・2015年からNATOで唯一男女の兵役が課せられるノルウェー ノルウェーの方々の生活
・教育・福祉 食の分野としてはヴィーガン、オーガニック、グルテンフリー（特に乳製品・子ども食）事情。

私達の暮らしと大きく密接している政治や「北欧モデル」と呼ばれる現代のノルウェー社会の実情について等 赤澤さんへの質問や更には勉強会に参加して下さった方々同士での意見交換 今後の展望についての議論等 大変有意義な場となりました 政治に無関心でアクションを起こさない方々が多い日本には「誰に投票して良いのかも分からない」「どうせ変わらない」そんな閉塞感も漂っていますが、面と向かってお話してみると様々なお声や素晴らしいアイデアも聞こえてきました。なぜこんな日本になってしまったのでしょうか？ 野党？与党？ 私達ひとりひとりではないのでしょうか？

私達の生活そのものである政治に対して諦めではなく希望を持ち大いに語ってみませんか？ チームcivicでは今後も様々な政治や社会のいろんなことに関してのイベントを企画しております 是非、あなたの御声もお聞かせ下さい もしかすると社会の根底をひっくり返すきっかけになるかもしれません♪

【報告者:松本なおこ】

報告

基本を学ぼう～遺伝子操作食品問題(リアル&WEB)

■開催日:2023年9月7日
■場 所:コープ自然派奈良 会議室またはオンライン
■主 催:理事会 ふうど



遺伝子組み換え、ゲノム編集、フードテック…などの遺伝子操作食品について、自然派事業連合顧問の松尾さんをお迎えしてお話をお伺いしました。気にはなっているけれど、難解な言葉も多く難しいイメージの遺伝子操作食品のことを、また、世界では禁止/規制が進む農業グリホサートが日本では規制緩和され国産小麦でない給食のパンからもほぼ検出されていることなど、実際の事例を多く用いながらとても分かりやすくお話いただきました。なぜ、GM(遺伝子組み換え)やゲノム編集が開発、推進されるのか？という問いの答えが、「ビジネス」ということがとてもショックでした。そして、「壊してもよい遺伝子はない。政府は、国民の健康を守る気はありません。」という松尾さんのお言葉が印象的でした。

ゲノム編集されたものには表示義務がありませんので、消費者は知らないうちに食べてしまう、農家は知らないうちに育ててしまう可能性があります。遺伝子操作されていない食を守りたいと立ち上げられた「OKシードプロジェクト」のご紹介もいただきました。無料の登録サポーター随時募集中です。もし関心を持って下さった方がいらっしゃいましたらHPをご覧ください。

<https://okseed.jp/>

≪参加者の感想一部紹介≫今まで聞いてみたかったことを聞かせて頂き、すぐ答えを頂けて大変嬉しく思いました。次々と新しいことが起こってきますので、まだまだ勉強していきたいです。「楽しく食べることが一番大事。」という最後のお話しが本当にその通りで素敵です。技術としては、とても高いすごい技術なのかも知れませんが、私は身体をそんな食べ物で作りたくはありません。真実が隠されたニュースでイメージ操作されていた事に驚きました。金儲けと慈善が表裏一体とは…。このような機会に参加し、家族の安全の為に知識の更新をつづけなくてはと改めて思いました。 自分のできる、身近なことから動いていきたいと思います。

【報告者:杉山千尋】

報告

はならあとサステナブル講座 お野菜生活を楽しもう～種ブローチ作り

■開催日:2023年9月2日
■場 所:Dear Gallery NARA
■主 催:理事会 つながる



奈良・町家の芸術祭はならあと2023のプレイベントとして、奈良県農民連産直センターの事務局長で、奈良の学校給食を考える会(きゅうしょくカンガルー!)の水井康介さんに「それいけ!ひろがれ!地場産・有機給食」と題してお話を伺いました。1960年代から保育園などで有機、和食給食の動きがスタートし、その後全国で地場産の給食を食べさせたいという取り組みが広がりました。2022年には「全国オーガニック給食フォーラム」が開催され、多くの市町村長や給食に関心がある保護者などが参加し、各地でオーガニック給食の取り組みが広がってきています。

そもそも学校給食の始まりは、1889年山形県鶴岡市で米を持って来れない子どもたちに配り始めたのがきっかけでした。第二次世界大戦後、戦後の食糧難の中、子どもの欠食対策として、アメリカの余剰農産物が活用されるようになり、パン・牛乳中心の給食になっていったそうです。

日本の食糧自給率が低い理由はいくつかありますが、ひとつは「米食をすると頭脳が悪くなる」と言われパン食を推奨する食生活改変政策がとられたことです。キッチンカーが全国津々浦々を回り、パン食を普及していったそうです。また貿易自由化で日本の農業生産を抑える政策がとられたこともあります。そのような政策は学校給食にも大きく影響しました。学校給食で地元の米や国産小麦のパンを食べることで、子どもたちの健康も、日本の生態系や環境も守ることができます。まずは国産を。さらに地元産のオーガニック給食を目指して、一緒に働きかけていきましょう。

報告

はならあとサステナブル講座 発酵生活を楽しもう～ミニ塩こうじ作り

■開催日:2023年9月3日
■場 所:Dear Gallery NARA
■主 催:理事会 ふうど



「奈良・町家の芸術祭はならあと2023」プレイベントとして、奈良まちのギャラリーを会場に、手作り塩こうじ講座を開催しました。はじめに、スタッフ手描きの紙芝居で米麹の原料となるお米についてお話をし、みんなでお米クイズにも挑戦しました。お米は縄文後期から栽培され、日本人の暮らしと深いつながりのある作物であること、田んぼがあることで、生き物の生息環境が守られ、大雨の時も小さなダム役割を果たすこと、お米を原料にした調味料(味噌、酒、みりんなど)や食べ物(おもち、お団子など)がたくさんあること、など。

塩こうじの作り方はとても簡単。材料をビンに入れて一日一回混ぜるだけ。コツは、最初に塩とこうじを合わせる際に、自分の手で混ぜること。すると、それぞれの手についた常在菌が入り、「手前味噌」ならぬ「手前塩こうじ」になります。1週間後には発酵が進み、とろっとなったら完成です。参加者の皆さんには、塩だけと塩こうじで作ったきゅうりの浅漬け2種類を食べ比べ、こうじのうま味を実感してもらいました。さらに、アレンジ麹の「玉ねぎこうじ」「トマトこうじ」「醤油こうじ」3種の試食もしました。玉ねぎこうじとトマトこうじはスープ、パスタなど洋風のお料理に合わせやすい、醤油こうじは煮物や納豆に合う、など、スタッフおすすめの食べ方もお伝えしつつ、わいわい盛り上がりしました。減り続けるお米の消費、荒廃する田んぼを何とかしたい、と、コープ自然派では無農薬や省農薬でお米を作って下さる農家さんを応援する取り組みをしています。思いのある農家さんが作ったお米を食べて、日本の食と農と環境をみんなで守っていきましょう！【報告者:西村いずみ】

報告

核兵器廃絶についてインドネシアや日本の高校生・大学生とわいわい考えてみませんか？

■開催日:2023年9月10日
■場 所:プロム近鉄奈良駅会議室1
■主 催:CIVIC



インドネシアのディニヤブトリパダンパンジャン校※からやってきた高校生(8人)と日本の高校生と大学生(女子ばかり4人)が交流する!そこへ核兵器廃絶ネゴシエーターとして日本中、いや世界を股にかけて飛び回っている若手活動家の高橋悠太※さん、No Nukes Tokyoの大学生倉本さんが加わるという…賛沢極まりない企画でした。まず日本の高校生から報告。「高校生平和大使」として署名活動や長崎、国連欧州本部を訪問しての平和活動などを展開されています。街頭での署名活動では若い人の無関心を痛感するそうです。

インドネシアの高校生からも報告がありました。政府は核兵器廃絶禁止条約に署名はしたが、批准はしていない。ウランが採れるのもっと活用すべきだという意見すら聞かれるし、原発建設計画もある。しかし、地震の多い土地柄から原発に否定的な市民も多い。原発・核兵器について情報が少ない状態。

高橋悠太さん&倉本さんは核廃絶の活動について報告され、核兵器廃絶条約※の締約国会議に日本政府がオブザーバー参加※をすべくと訴えています。日本が日米安保を理由に条約に参加出来ないのは理解するが、せめて会議で発言をし、被爆国として世界へ向けてメッセージを出すべきだと考えです。どうして日本が参加しないのか、そして原発は持続可能なのか、という話が追加されました。

最後はグループ毎の話合いです。「どうすれば核兵器がなくせるか?」でした。言葉の壁を感じつつも皆さん笑顔で乗り切った!「みんなに伝えて核兵器のない世界を作っていこう!」というのがいずれのグループにも共通していました。まずは知ること、そしてそれを伝えていくこと。インドネシアを知るきっかけにもなった今回のイベント、実りの多いものでした。Sampai jumpa lagi(また会いましょう)!!

※ディニヤブトリパダンパンジャン校:インドネシアで初めて創立された女子のための全寮制イスラーム貫教育校。幼児～大学まで完備。西スマトラ州パダンパンジャン市。<http://www.diniyyahputeri.org/>
※高橋悠太:核廃絶ネゴシエーター。広島県出身。中学校時代より核廃絶運動を続ける。一般法人かたわら主催。
※オブザーバー参加とは:発言権はあるが議決権のない参加方法、傍聴。
※核兵器禁止条約:将来的な核兵器の全廃へ向けた、核兵器を包括的に法的禁止とする初めての国際条約。核保有国の米国、イギリス、フランス、中国、ロシアは不参加。NATO加盟国、米国との軍事同盟を結ぶ日本・オーストラリア・大韓民国などにも不参加である。 【報告者:谷口英子】

